

## 年間指導計画表

|       |         |          |                |
|-------|---------|----------|----------------|
| 教科・科目 | 芸術科・日本画 | 単位数      | 4              |
|       |         | 学科・学年・学級 | 普通科(創造表現コース)3年 |

## 1 学習の到達目標等

|            |  |
|------------|--|
| 学習の到達目標    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・創ることのよこびを知り、意欲的に制作する態度を養う。</li> <li>・美しさを探求する態度を養う。</li> <li>・日本画の表現技法について体得する。</li> <li>・学習した表現技法を応用し実践する。</li> </ul> |
| 使用教科書・副教材等 | 本校制作テキスト、実技用具など  |

## 2 評価の観点等

| 観点          | 趣旨   | 評価方法   | 配分  |
|-------------|--|--------|-----|
| a. 関心・意欲・態度 | 美に対する感動や、自己の考えを主体的に表現しようとする。                   | 授業態度など | 10% |
| b. 思考・判断・表現 | 多様な表現形式の特質を理解し、独創的な表現に活かす。                     | 制作作品など | 50% |
| c. 技能       | 意図に応じて材料、用具を活かして表現することができる。                    | 制作作品など | 30% |
| d. 知識・理解    | 美術の働きや美術作品の美しさ、特質等について自己の意見を持ち、互いに批評しあうことができる。 | 観賞態度など | 10% |

## 3 学習計画

| 学期 | 月     | 時数 | 学習内容             | 学習のねらい  | 評価の観点 |   |   |   |
|----|-------|----|------------------|---|-------|---|---|---|
|    |       |    |                  |   | a     | b | c | d |
| 前期 | 4~5   | 16 | 静物デッサン<br>(鉛筆)   | 鉛筆による表現を学ぶ<br>鉛筆の種類、硬軟の使い分けと表現効果について学ぶ<br>構図のとり方や描法の方法について学ぶ<br>空間表現、質感の描き分けについて学ぶ  | ○     | ○ | ○ | ○ |
|    | 5~6   | 16 | 静物着彩<br>(水彩)     | 着彩による表現と描法を学ぶ<br>着彩道具の使い分けと表現効果について学ぶ<br>構図のとり方や描法の方法について学ぶ<br>質感表現の描き分けについて学ぶ  | ○     | ○ | ○ | ○ |
|    | 6     | 4  | 画材研究             | 日本画の描画方法やその歴史、成り立ちなどを学ぶ<br>日本画の特徴や性質について学ぶ  | ○     |   | ○ | ○ |
|    | 7~9   | 34 | 日本画実制作Ⅰ<br>(静物画) | 岩絵具、水干絵具による日本画の技法と表現を学ぶ<br>膠の使用法について学ぶ<br>用具の使用法について学ぶ<br>下図による構図の研究する<br>質感表現について学ぶ                                      | ○     | ○ | ○ | ○ |
| 後期 | 10~11 | 10 | 自画像デッサン<br>(鉛筆)  | 自画像をモチーフとした鉛筆描写を学ぶ<br>量感、動勢、空間表現について学ぶ<br>人体骨格の確認と構図について研究する<br>人体の比率やバランスの取り方について学ぶ<br>自画像の持つ質感、量感を追求する                  | ○     | ○ | ○ | ○ |
|    | 11~3  | 60 | 日本画実制作Ⅱ<br>(自画像) | 授業で実践した技法・描画材を応用し、自画像の日本画制作を行う<br>画面内でのモチーフの入り方、構図について研究する<br>質感表現について研究する<br>岩絵具、水干絵具による日本画の技法の探求をする<br>創造的な自己表現について研究する | ○     | ○ | ○ | ○ |